

## News Release

2012年4月23日

### 曙ブレーキ、「akebono研修センター(仮称)」地鎮祭を実施

曙ブレーキ工業株式会社（代表取締役社長：信元久隆 本店：東京都中央区 本社：埼玉県羽生市）は、グローバル研修センターの新築工事着工にあたり、地鎮祭を実施いたしましたのでお知らせいたします。

11時30分から執り行われた地鎮祭には、当社社長の信元久隆をはじめ、関係者約40名が出席。埼玉県産業労働部部長や羽生市市長など、多くの来賓を迎えました。信元のコメントは以下です。

「私共の創業は1929年、その10年後に需要の大幅増に対応するため、羽生に土地を購入し、翌年から生産を開始しました。2001年には開発、購買、生産、営業など各地に存在していた機能を羽生にまとめ、業務改革を推進する場として、「Akebono Crystal Wing (ACW)」を中核に「Ai-City」を創り上げました。現在もここ羽生は我々にとって重要な拠点であるとともに、進化を続けています。これまでのakebonoの歴史の中では大きな3つの転換期があります。その第3の転換期にあたるのが2010年、ボッシュのブレーキ事業を譲り受けた際のことです。本当の意味でのグローバル化へ新たな一歩を踏み出しました。現時点では、売上げ・従業員数ともに約6割が海外、さらにこれからベトナム・メキシコなどの新工場が稼動していくこととなります。国籍、言語、教育、習慣など、さまざまな価値観を持った多様な社員達が、お互いの違いを認めながら一体感を共有する。そのための様々な仕掛けがこの「akebono 研修センター(仮称)」に詰め込まれています。」

「Ai-City」には本社機能のほかに「モノづくりセンター」「ブレーキ博物館 (ai-museum)」などの施設を有しており、「akebono 研修センター」を新設することによって、人材育成の機能をさらに充実させ、グローバルで活躍できる人財を創出し、中長期にわたる人的基盤を強化していきます。

#### < 「akebono 研修センター」の主な設備 >

- ・ 研修内容によりスペース可変可能な大・中・小研修室
- ・ 大学の講義室をイメージしたプレゼンルーム
- ・ 語学専用研修室
- ・ コミュニケーションを活性化するためのラウンジ、緑化スペース
- ・ 中長期研修者用向けの宿泊機能
- ・ 食文化を通じて文化の違いを体験するための厨房機能
- ・ eラーニングなど自主学習のためのライブラリー
- ・ 国内外拠点とのネットワーク強化のためのTV会議システム常態接続

#### 環境への取り組み

- ・ 敷地全体を活かした緑化活動に努め、敷地の33%を緑地として確保
- ・ 自然エネルギーの活用（太陽光発電システムや太陽熱温水器、自然採光を利用した省エネ）
- ・ 地域の生物多様性への取り組み（水生植物のムジナモや蛍の育成）を推進

#### BCP 対策

- ・ 施設耐震強度を基準の 1.5 倍化
- ・ 災害時緊急避難所として、備蓄庫の設置
- ・ 非常用自家発電機能設置

#### <施設概要>

建物名称 akebono 研修センター（仮称）

建設予定地 埼玉県羽生市東 5 丁目

敷地面積 約 9,500 m<sup>2</sup>

延床面積 約 3,900 m<sup>2</sup>

構造 地上 2 階鉄骨造り

設計 株式会社プランテック総合計画事務所

施工 北野建設株式会社

着工 2012 年 5 月（予定）

竣工 2012 年 12 月（予定）

投資総額 約 17 億円